

空腹時の胃痛、胃もたれはありませんか？

このような症状があるときは、胃、十二指腸潰瘍の可能性あります。潰瘍は、胃酸によって胃や十二指腸の粘膜が消化されてしまうことによって発生します。最近、強力に胃酸の分泌を抑制する薬ができており、これによってほとんどの潰瘍は良くなります。しかし、薬をやめると再発してしまうこともよくあります。

潰瘍とピロリ菌の関係

最近、ヘリコバクター・ピロリ菌と潰瘍の関係について知られるようになってきました。ピロリ菌は胃に住んでいる細菌の一種で、40才以上の日本人の実に約75%もの人が感染していると言われています。ピロリ菌が出す物質が胃の粘膜を傷害し、潰瘍を発生させると考えられています。ピロリ菌の存在を確かめる方法としては、内視鏡を受けていただくか、あるいは血液検査、息を吹く検査、便の検査などもあります。

胃潰瘍はピロリ菌の除菌で再発しにくくなります。

ピロリ菌が存在し、かつ胃・十二指腸潰瘍おこした人、あるいは何度も再発してしまうような人には、このピロリ菌をやっつける治療（除菌治療）が、保険診療で認められています。方法はいたって簡単で、胃酸を強力に抑制する薬と、細菌を殺すための抗生物質（通常の倍量）を、一週間だけ飲み続けることです。この方法で除菌の成功率は約8割といわれています。除菌失敗例についても、抗生物質を変更して治療する場合があります。薬を飲むことによる副作用は、下痢、嘔気、まれに逆流性食道炎を起こすことがあると言われています。除菌後一ヶ月以上たってから、息を吹く検査などでピロリ菌が消えたかどうか確認することが可能です。除菌をすれば、潰瘍の再発率は、除菌しない場合に比べて、約20分の1程度にまで抑えられると考えられています。

胃十二指腸潰瘍、ピロリ菌などについて詳しくお知りになりたい方は、内科担当医までお知らせください。

(文責 小倉)